

# だまっていたは命は守れない



発行所  
三池炭鉱労組  
大牟田市不知火町2  
電話 3033番  
8100番  
編集兼人 澁田紀生  
発行人 澁田紀生

労働者革命の第一歩は、プロレタリア階級を支配階級にまで高めること、民主主義を闘いこむことである。  
【共産党宣言】

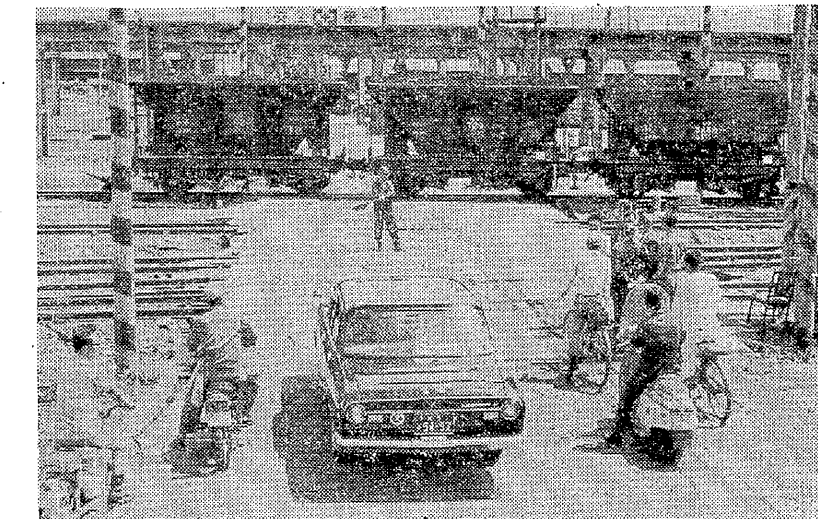
## 西友吉さんの命を奪う

### みなと魔の踏切り事故

でたらめな経営の本性をあげく



にもかかわらず、警戒人配置にいたっては三池斗争終結以後廃止するなど、災害の原因は人へらし合理的であることが明らかとなった。三池労組は、西友吉の災害に対して、怒りを結集し、四日一時間五分の抗議ストライキを行った。国会議員団の調査 今回の事故の最も重要な原因は会社側が踏切の保安設備をなかつたからだと、鉄道関係安全設備諸法規に照らして検討した



6日、事故現場を調査する小柳・小野・細谷の三国会議員団

あつたにもかかわらず、保安設備をしないこと一事を見ても会社の保安設備は、関係官庁がいかにも不十分であつたが、新産都市づくりの港解放と鳴物入り太鼓で三井資本が宣伝し、写真上は故・西友吉さん

## 主 張 労働者と踏切り

去る九月三日朝、港務所一車踏切り災害に、われわれ同志

西友吉氏をうしなつたが、ここにかげがえのない同志の死を通じて、新たな怒りを燃やしている。道路だが踏切りは必要ないのか

幅約一〇メートル、正門から本館・税関・検疫所・海運局・海上保安部等々三池港心臓部に向かう幹線道路で、外部からの人員・車輛の通行も自由で交通量も最大、しかも一本の軌道が絶えず列車・炭車を横切らせている道路だ

交通と一本の道路だが踏切の安全設備の必要はない、といふ

「ごま化しと矛盾に抵抗しよう」

「ごま化しは構内治外法権だ」といふばかりの大資本の独善を余すところなく示しており、絶対に許さない。

「ごま化しは構内治外法権だ」といふばかりの大資本の独善を余すところなく示しており、絶対に許さない。ところが、監督官庁である陸運局は「地方鉄道踏切り替への際には踏切の指定はしなかつたが、安全施設はしてもいい」といふ態度をとり、自らの「監督ま化し」を矛盾のために殺され傷つけられるのは、三池労組員・第二組合員・組長を問わぬ労働者階級であること、この踏切の災害でトラック運転手を取り調べる、再確認すべきだと痛感する。

「ごま化しは構内治外法権だ」といふばかりの大資本の独善を余すところなく示しており、絶対に許さない。ところが、監督官庁である陸運局は「地方鉄道踏切り替への際には踏切の指定はしなかつたが、安全施設はしてもいい」といふ態度をとり、自らの「監督ま化し」を矛盾のために殺され傷つけられるのは、三池労組員・第二組合員・組長を問わぬ労働者階級であること、この踏切の災害でトラック運転手を取り調べる、再確認すべきだと痛感する。

「ごま化しは構内治外法権だ」といふばかりの大資本の独善を余すところなく示しており、絶対に許さない。ところが、監督官庁である陸運局は「地方鉄道踏切り替への際には踏切の指定はしなかつたが、安全施設はしてもいい」といふ態度をとり、自らの「監督ま化し」を矛盾のために殺され傷つけられるのは、三池労組員・第二組合員・組長を問わぬ労働者階級であること、この踏切の災害でトラック運転手を取り調べる、再確認すべきだと痛感する。

出炭不足で頭の痛い三井鉱山 去る八月三十一日に大手七社の社長会議がひらかれ、その席上で井上石炭局長が「思ふた自然条件をもちながら出炭低下となつてい

「ごま化しは構内治外法権だ」といふばかりの大資本の独善を余すところなく示しており、絶対に許さない。ところが、監督官庁である陸運局は「地方鉄道踏切り替への際には踏切の指定はしなかつたが、安全施設はしてもいい」といふ態度をとり、自らの「監督ま化し」を矛盾のために殺され傷つけられるのは、三池労組員・第二組合員・組長を問わぬ労働者階級であること、この踏切の災害でトラック運転手を取り調べる、再確認すべきだと痛感する。

## 三井鉱山はどう考えるのか 経営者は頭を冷やしたらどうか

「ごま化しは構内治外法権だ」といふばかりの大資本の独善を余すところなく示しており、絶対に許さない。ところが、監督官庁である陸運局は「地方鉄道踏切り替への際には踏切の指定はしなかつたが、安全施設はしてもいい」といふ態度をとり、自らの「監督ま化し」を矛盾のために殺され傷つけられるのは、三池労組員・第二組合員・組長を問わぬ労働者階級であること、この踏切の災害でトラック運転手を取り調べる、再確認すべきだと痛感する。

「ごま化しは構内治外法権だ」といふばかりの大資本の独善を余すところなく示しており、絶対に許さない。ところが、監督官庁である陸運局は「地方鉄道踏切り替への際には踏切の指定はしなかつたが、安全施設はしてもいい」といふ態度をとり、自らの「監督ま化し」を矛盾のために殺され傷つけられるのは、三池労組員・第二組合員・組長を問わぬ労働者階級であること、この踏切の災害でトラック運転手を取り調べる、再確認すべきだと痛感する。

「ごま化しは構内治外法権だ」といふばかりの大資本の独善を余すところなく示しており、絶対に許さない。ところが、監督官庁である陸運局は「地方鉄道踏切り替への際には踏切の指定はしなかつたが、安全施設はしてもいい」といふ態度をとり、自らの「監督ま化し」を矛盾のために殺され傷つけられるのは、三池労組員・第二組合員・組長を問わぬ労働者階級であること、この踏切の災害でトラック運転手を取り調べる、再確認すべきだと痛感する。